

平成30年度

事務事業評価表 A (平成29年度の実績評価)

記入年月日
平成 29 年 4 月 3 日

事務事業名		消防団火災出動・火災警戒出動事業				事業区分		担当		
						新規/継続	継続	事務事業No.	030102000678	
		政策体系上の位置付け				単独/補助	単独	所属課	020801	
政策体系	総合計画の施策名	0301 防災・消防対策の充実				主要事業		防災課		
	政策名	03 安全安心な暮らしのまちづくり				市長マニフェスト				
	施策名	01 防災・消防対策の充実				未来PJ事業		グループ		
	手段名	02 ②消防防災体制の強化				合併建設計画事業		防災		
		財務会計上の位置付け				事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計			
	01	09	01	02	01	00	非常備消防事業			
法令根拠							単年度繰返し (年度~)			
							☞ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その1)

(1) 事務事業の概要	
手 段	①事務事業の概要(事務事業の全体像)
	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
・火災及び災害時の消防団活動の記録、消防団との連携	火災出動回数	回	17.00	13.00	24.00	24.00	24.00
	風水害出動回数	回	1.00	1.00	3.00	3.00	3.00
	地震災害出動回数	回	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
・火災及び災害現場	火災発生件数	件	17.00	13.00	30.00	30.00	30.00
	風水害発生件数	件	1.00	1.00	3.00	3.00	3.00
	地震災害発生件数	件	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	31年度 (目標)	32年度 (目標)
・火災を最小限に抑える。 ・災害による被害箇所を現状復旧する。	消火活動件数	件	44.00	21.00	30.00	30.00	0.00
	風水害現場応急対策実施件数	件	1.00	1.00	3.00	3.00	3.00
	地震災害現場応急対策実施件数	件	0.00	0.00	1.00	1.00	1.00

(3) 投入量(事業費)の推移		28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (計画)	期間限定 総投入量	
投 入 量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0
		その他	千円	0	0	0
		一般財源	千円	13,959	11,108	12,500
	事業費計(A)	千円	13,959	11,108	12,500	
人件費	正規職員従事人数	人	4.00人	3.00人	3.00人	
	述べ業務時間	時間	140.00	64.00	140.00	
	人件費計(B)	千円	410	187	410	
トータルコスト(A)+(B)		千円	14,369	11,295	12,910	

事業費の内訳	29年度事業費 実績(千円)			30年度事業費 予算(千円)		
	09 旅費	11,108		09 旅費	12,500	
	合計	11,108		合計	12,500	

(4) 当該年度の実施内容		30年度の事業内容	31年度の事業内容	32年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する				
<ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 				

事務事業名	消防団火災出動・火災警戒出動事業	事務事業No.	30102000678	所属課	防災課
-------	------------------	---------	-------------	-----	-----

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
<ul style="list-style-type: none"> 消防団は火災や風水害、その他の災害現場で生命、身体及び財産の救護に当たり、損害を最小限度にとどめて災害の防御及び鎮圧に努める責任を負っており、設置当初からの活動を行っている。 社会の就業形態が変化していく中で、消防団員の会社員の占める割合が増加しており、日中の火災及び災害時の出動人員の確保が困難になってきている。 	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
<ul style="list-style-type: none"> 消火活動を迅速に行えるよう、常備消防との連携を密にし、協力体制を強化してほしいという意見がある。 	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	<ul style="list-style-type: none"> 地元で仕事に従事している人が減少していることに加え、人口自体も減少しているため、消防団員の確保が今後困難になっていくことが予想される。火災予防意識の啓発と共に消防団への入団促進の施策を展開する必要がある。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている <ul style="list-style-type: none"> 火災や災害発生時はまず第一に住民の命を守らなければならないので、消火活動や応急対策を実施することは安全で安心して暮らせる生活環境づくりに結びつく。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <ul style="list-style-type: none"> 消防団が常設消防と協力して火災や災害現場で対応することで、市民の安全と安心が守られるため市が行うことは妥当である。
有効性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <ul style="list-style-type: none"> 日中の出動人員の確保が困難になってきているため、機能別消防団員の確保や市役所職員の入団促進を検討し行っていくことで、日中の出動人員を確保し火災及び災害対応の効率化や迅速化が図れる。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 <ul style="list-style-type: none"> 常設消防だけでは活動に限界があるため、消防団の活動は欠かせないものである。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) → 具体的な手段、事務事業名	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない <ul style="list-style-type: none"> 常設消防と連携を密にすることにより、現場での対応能力が向上すると思われる。日頃の訓練においても常設消防と一緒に実施することでその効果が期待できる。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない <ul style="list-style-type: none"> 事業費は各種出動に伴う費用弁償であるのでその回数が減らない限り、削減の余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である <ul style="list-style-type: none"> 市民の安全と安心を守るための事業であり、市が負担することは妥当である。市内における火災や災害の発生時には、地区や場所に関係なく活動を行うので、すべての市民が受益者であり特定の受益者はいない。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	日中の出動人員確保が課題となっており、機能別消防団員や市役所職員を確保することで対応していくことが考えられる。また、現場での対応能力向上のため、常設消防と共に訓練を行うことが市民の安全と安心を守るため必要である。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う → <input type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <table border="0"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 目的の再設定</td> <td><input type="checkbox"/> 効率性の改善</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善</td> <td><input type="checkbox"/> 公平性の改善</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 統廃合ができる</td> <td><input type="checkbox"/> 連携ができる</td> </tr> </table>		<input type="checkbox"/> 目的の再設定	<input type="checkbox"/> 効率性の改善	<input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善	<input type="checkbox"/> 公平性の改善	<input type="checkbox"/> 統廃合ができる	<input type="checkbox"/> 連携ができる																	
<input type="checkbox"/> 目的の再設定	<input type="checkbox"/> 効率性の改善																									
<input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善	<input type="checkbox"/> 公平性の改善																									
<input type="checkbox"/> 統廃合ができる	<input type="checkbox"/> 連携ができる																									
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持		○	×																						
	低下		×	×																						
新入団員の人員確保が難しいため、OB団員による機能別消防団や市役所職員の確保で、日中の出動に対応することが出来ると考えられる。		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果	②																							
		コスト削減優先度評価結果	⑨																							

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>